

OPAM開館10周年記念「きらめく日本美術 1300年の至宝展」開催のお知らせ



【OPAM開館10周年記念】古代から近世まで、大分の「美」の軌跡をたどる！

周縁から生まれた豊かな文化風土と中央との交流が育んだ名品の数々を一挙公開

大分県立美術館（OPAM）では、開館10周年を記念し、「きらめく日本美術 1300年の至宝展」を11月22日（土）から開催いたします。

本展では、古代から近世に至るまで、旧豊前・豊後の地域に伝わる古美術の数々に焦点を当て、大分ならではの美の特色を探ります。宇佐神宮から始まった八幡信仰、大友氏と禅宗、南蛮美術、豊後南画など、多彩なテーマを横断的にご紹介。京都や江戸、さらには中国といった「中央」の文化との交流の中で、独自の豊かな特徴を開花させ、発展していった大分の美術の全貌をはじめて明らかにします。

本展を通して、この地で育まれた美術の魅力と価値を再発見し、現代へと繋がる文化の軌跡をたどりま



OPAM開館10周年記念「きらめく日本美術 1300年の至宝展」CM動画



1章 神と仏が会う 八幡信仰の至宝

宇佐神宮は全国4万社ある八幡宮の総本社。

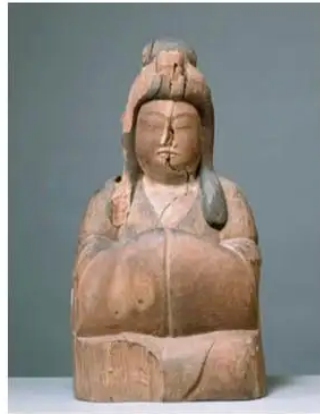
2025年は宇佐神宮に八幡神が御鎮座して1300年という記念年。

日本古来の八幡神は仏教と融合。国家と仏法の守護神となり全国に広まった。宇佐神宮の祖宮とされる薦神社（中津市）、別宮とされる奈多宮（杵築市）杵原八幡宮（大分市）からも神宝を一挙公開。



「太刀 銘 国宗」鎌倉時代（13世紀）重要文化財 杵原八幡宮

備前出身の国宗は鎌倉に移住し新藤五国光に技法を伝授。相州伝の基礎を作る。相模（神奈川県小田原市）にルーツを持つ大友氏の奉納刀。



八幡三神像 （左）木造僧形八幡神像（中）木造女神坐像（比売大神）（右）木造女神坐像（神功皇后像）

平安時代（12世紀） 重要文化財 奈多宮

武家の信仰を集めた武運の神・八幡神。

宇佐神宮の別宮・奈多宮の三神像。宇佐神宮の行幸会という神事（現在は中断）では、御神体は6年ごとに新調され、旧御神体は薦神社へ移された後、海に流された。奇跡的に遺った貴重な神宝。

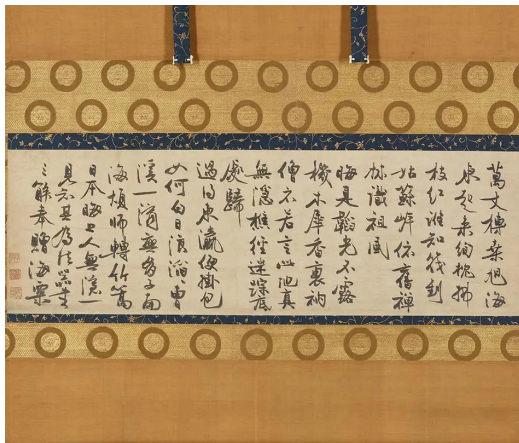
2章 守護大名大友氏の台頭と禅宗文化

相模国（神奈川県）にルーツをもつ大友氏。

ほぼ無名に近い一族が、鎌倉幕府・源頼朝の大抜擢で豊後の守護職へ。

次代には室町幕府・足利尊氏の信任を得て引き続き豊後を中心に九州北部を治めた。

武家の精神的支柱だった禅宗。当時最先端の禅宗文化を導入する。



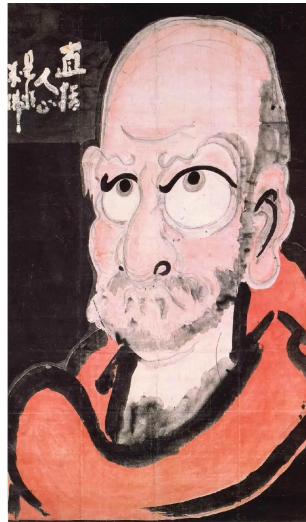
馮子振「無隠元晦あて法語」

中国・元時代（14世紀） 国宝 東京国立博物館 ※11/22～12/21展示

大友貞宗に派遣された留学僧・無隠元晦。

元の著名な文人から与えられた書。

松江藩主の著名茶人・松平不昧旧蔵の逸品。



白隠慧鶴「達磨像」江戸時代（18世紀）万寿寺※11/22～12/21展示

江戸時代に人気を博した禅僧・白隠。

絵を描いて禅の教えを説いた。

大分は九州において白隠禅が広まる最初の拠点。

人間の身長よりも巨大な掛軸のダルマに圧倒される。

3章 大友宗麟の栄華

戦国時代になると、大友宗麟が九州6か国（豊後、豊前、筑前、筑後、肥前、肥後）の守護職を手中に収めて最盛期を極める。将軍・足利義輝から九州探題に任ぜられる。

1551年、宣教師フランシスコ・ザビエルを府内に招き、南蛮貿易も開始。ポルトガル、中国、東南アジア諸国との積極的な国際貿易を行う。

一方で千利休から「なかなかの数寄者（風流人）」と評され、芸能・文化に優れた才能を発揮。莫大な経済力を背景に、書画、茶道具の名品を収集した。



「唐物肩衝茶入 銘 新田肩衝」 中国・南宋時代（12～13世紀）

重要美術品 公益財団法人徳川ミュージアム



「唐物瓢箪茶入 銘 上杉瓢箪」 中国・南宋時代（12～13世紀）

野村美術館



玉潤 「山市晴嵐図」 中国・南宋時代末期～元時代初期（13世紀）重要文化財 出光美術館 ※11月22日～12月7日展示

宗麟が集めた現存する茶道具は3点のみ。すべて一堂に揃うのは史上初！どれも將軍家や名だたる武将の手を経て今に伝来した宝物！三つの名品が揃う展示は、これを逃したらもう二度と見られない！宗麟が愛した奥深い茶道具の魅力をじっくり見つめてみよう。

4章 豊後南画と中国絵画

戦国の世が終息し、天下泰平を謳った江戸時代の経済発展に伴い、庶民文化が大いに広がった。徳川幕府は長崎出島においてオランダ・中国との貿易を許可した。大陸から最新の文化が流入し、その文物が天領日田に集まった。中でも中国・明清時代の書画は、知識人たちの関心を集め、それに学んだ品格ある豊後南画を生んだ。



（左から）沈銓（沈南蘋） 老圃秋容図 1731（清・雍正9）年 静嘉堂文庫美術館、戴明説 山水図 中国・清時代（17世紀） 静嘉堂文庫美術館（日田・千原家旧蔵）、真村蘆江 天明7年（1787）長崎歴史文化博物館、田能村竹田 歳寒三友双鶴図 1831年（天保2）重要文化財 個人蔵

天領日田には輸入された中国文物が集められ、洗練された品格ある文化が展開した。

日田の豪商・千原家が所蔵した中国絵画の名品が里帰り！

中国の沈南蘋（しん・なんびん）の作品を公開。当時人気を集め、南蘋ブームを巻き起こした。

南蘋風を学んだ長崎派の絵師・真村蘆江は、日田の豪商・森家に招聘され、豊後南画に大きな影響を与えた。

こうした豊後に高まる文化潮流を逃さず、豊後南画を大成した田能村竹田の名品を公開！

5章 近世豊前・豊後の藩絵師、浮世絵師の活躍

現在の大大分県の県域は、江戸時代の中津藩、杵築藩、日出藩、府内藩、臼杵藩、佐伯藩、岡藩、森藩の8藩が分立するとともに、幕府直轄の天領日田や、他藩が管轄する飛び領が点在していた。小藩分立の各地には各藩の御用を勤める藩絵師や浮世絵師が活躍した。



歌川豊春 布袋屋店先 江戸時代後期 個人蔵

臼杵出身説の有力な歌川豊春。浮世絵史上、最大画派の始祖。珠玉の肉筆美人画を九州初公開。

展覧会名：OPAM開館10周年記念「きらめく日本美術 1300年の至宝展」

会 期：2025年11月22日（土）～2026年1月14日（水）

休展日：12月22日（月）は展示替えのため休展

時 間：10:00～19:00 ※金曜日・土曜日は20:00まで(入場は閉館の30分前まで)

会 場：大分県立美術館 3階 展示室B・コレクション展示室

観覧料：一般1,400円（1,200円）、大学・高校生1,200円（1,000円）

※()内は有料入場20名以上の団体料金

※中学生以下は無料

※大分県芸術文化友の会 ひびKOTOBUKI無料、TAKASAGO無料、UME団体料金

※身体障がい者手帳・療育手帳・精神障がい者保健福祉手帳をご提示の方とその付添者(1名)は無料

※学生の方は入場の際、学生証をご提示ください

主 催：公益財団法人大分県芸術文化スポーツ振興財団・大分県立美術館

共 催：大分合同新聞社、OBS大分放送

後 援：大分県、大分県教育委員会、NPO法人大分県芸振、西日本新聞社、朝日新聞大分総局、読売新聞西部本社、毎日新聞社、NHK大分放送局、エフエム大分、J:COM大分ケーブルテレコム、大分経済新聞、国東半島芸術文化祭実行委員会

協 賛：大分銀行、株式会社フォレストホールディングス、株式会社ダイプロ、平倉建設株式会社

関連イベント

記念講演会 1

演題：「守護大友氏の文化と美術」

講師：田沢裕賀（大分県立美術館 館長）

日時：2025年11月22日（土）13:30～15:00

場所：2F 研修室

定員：80名（要事前申込）

記念講演会 2

演題「江戸時代の風景表現～理想の山水景・耶馬溪」

講師：大橋美織（東京国立博物館 主任研究員）

日時：2025年11月29日（土）13:00～14:30

場所：2F 研修室

定員：80名（要事前申込）

記念講演会 3

演題：「田能村竹田の出現―東アジアの視点から」

講師：板倉聖哲（東京大学 東洋文化財研究所教授）

日時：2025年12月21日（日）13:00～14:30

場所：2F 研修室

定員：80名（要事前申込）

ギャラリー・トーク

日時：2025年11月24日（月・振休）、30日（日）、12月5日（金）、14日（日）、20日（土）、27日（土）、28日（日）、2026年1月1日（木・祝）、2日（金）、3日（土）、4日（日）、11日（日）、14日（水）

いずれも各日14:00～15:00

案内：担当学芸員

場所：3F 展示室B、コレクション展示室

申込：不要（要展覧会観覧券）

*各イベントの参加申込みは、当館HPの申込みフォームよりお申し込みください。申込受付は先着順となります。定員一杯になり次第、申込受付を終了します。

*各イベントのスケジュール、内容は、都合により変更となる場合がございます。予めご了承ください。

開会式およびメディア向け内覧会のお知らせ

2025年11月22日（土）開会式 9:15～9:45 内覧会 9:45～10:30

ご参加いただける方はお名前、ご所属、参加人数、電話番号をご記入の上、E-mailにて info@opam.jp までお申込みください。

OPAM開館10周年記念 きらめく日本美術 1300年の至宝展 WEBサイト



お問合せ：公益財団法人 大分県芸術文化スポーツ振興財団 大分県立美術館

学芸企画課（展覧会担当） 宗像

管理課広報担当 安東・山口

Tel 097-533-4500 E-mail: info@opam.jp